

藤田医科大学病院がけん引

健康意識を高める豊明市のまちづくり



今泉和良氏

藤田医科大学病院病院長



小浮正典氏

豊明市長

愛知県豊明(とよあけ)市は、県の中央よりやや西部に位置する名古屋都市圏。人口は約6万8000人で、名古屋市のベッドタウンである。市では、独居高齢者の増加等を背景に地域包括ケアを通じた地域づくりを強化しているほか、2025年10月に「スマホ条例」を施行。健康意識を高めるまちづくりを進めている。今回は、小浮正典豊明市長と今泉和良藤田医科大学病院病院長が対談した。

小浮

豊明市長の小浮です。どう

ぞ、よろしくお願いします。豊明市は名古屋市南部に隣接し、同市のベッドタウンとして成長してまいりました。市としましては、約6万8000人が暮らす市民の住みやすさ、中でも安全・安心を重視しています。そこには、医療機関が非常に大きな役割を果たしていますが、豊明市に立地し、国内最大規模の病院数と病床数と最先端医療を提供している藤田医科大学病院の存在は、市民最大のメリットです。たとえ病気をしても、治療を受けて元気に長生きできる、市民にとって大切な存在ではないかと思っています。また、地域住民の高齢化が進む中、急性期

医療はもちろんですが、地域包括ケアについても熱心に取り組まれています。2014年には、藤田医科大学、独立行政法人都市再生機構、豊明市の3者が相互に包括協定を締結。民間企業等関係者と協力し、地域医療福祉拠点の形成に向けた取り組みを推進しています。この公民連携による高齢者な